


## 皆の工夫で、真夏の電力ピークをシフトしよう！

各事業部と本社EMSG（省エネ推進担当）が協力し、電力関連費用を削減する色々な工夫に取り組んでいます。その中から『電力ピーク』に関する取り組みを紹介します。私達一人ひとりも力を合わせて工夫に取り組みましょう。

### ◇夏場の数日だけピークを抑えると、毎月の契約料金が下がる。

簡単にいうと、電力費を削減するには2つの方法があります。

- ・電力使用そのものを下げる＝節電する
- ・基本料金を下げる。＝最大瞬間電力（ピーク電力）を“集中させない”

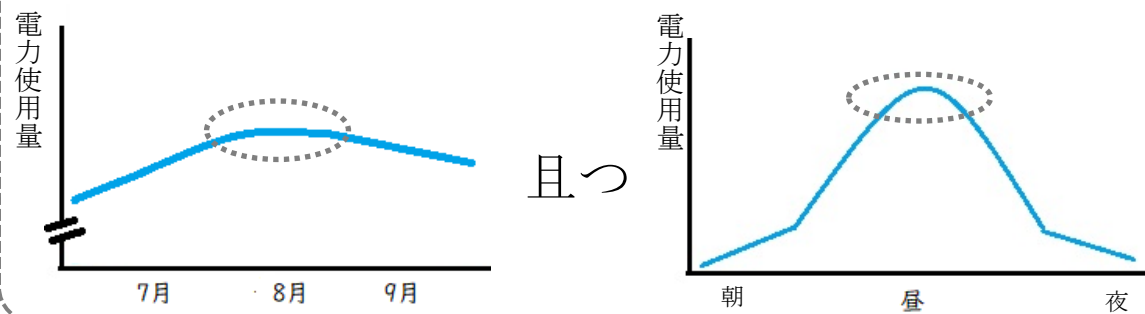
基本料金は、ピーク電力で決まり、1年間固定されます。

よって、夏場数日のピーク電力を抑えれば、1年間の費用削減が可能です。

#### 【ピークのイメージ】

気温が上がる“7月中旬～8月末”

“12時～15時”がピーク時間



### ◇6月1日から契約電力見直しで毎月140万点削減。しかし...

中部電力との相談で、通常11/1付けで契約更新のところ、6/1から契約電力（基本料金）が低減され、月140万点の費用削減となります。

せっかくの低減措置を活かすためには、私達一人ひとりが工夫してムダは減らし、電力使用量を抑えることが必要です。特に、ピーク電力（最大需要電力）が契約電力を超えない様に、『電力の集中使用を避け分散使用すること』がポイントとなります。具体的にどう取り組めばよいのでしょうか？

### ◇具体的な取り組み

#### ①事業部や工場全体での取り組み

- ・第10工場は工場内空調の温度設定を集中管理しています。又、早朝5時から8時まで空調機を停止。空調稼働時はジワリ立ち上げでピーク緩和します。
- ・本社ビルは7～8月の間、朝と昼食時の空調集中緩和のため、タイマー制御で早朝からジワリ立ち上げて行きます。6月に設定条件を決めて行きます。
- ・空調もガマンして一斉に稼働させるとピーク電力があがります。電気料金の安価な夜間（PM10:00～AM8:00）をタイマー運転などを上手に利用してピークカットにつなげて行きます。
- ・チラー（冷却水等の液体冷却装置）などの付帯設備も、稼働停止に合わせて電源OFFします。こういったベース電力のOFFもピーク緩和につながります。

#### ②職場や一人ひとりができる取組み・・・例えば会議室の工夫

- ・我慢はしないがムダは無くす！エアコンの消し忘れ、温度下げ過ぎに注意しましょう。
- ・会議時間は13～15時の使用を極力避けたり、チーム間やグループ間の時間調整で、一つの部屋を順番に使用することもピーク緩和につながります。
- ・3密防止のためにも会議室ドアを開放し、フロアの冷風を会議室に取り込みます。時間帯によっては会議室内エアコン「送風」で快適に過ごせます。

### ◇<でんき予報>を発信。最高気温を知り、ピーク低減の工夫へ

真夏のピーク電力は、最高気温に大きく左右されます。そこで環境事務局では、<でんき予報>をノーツ「本社部門からお知らせ」にて発信しています。工場毎（受電毎）に、前日までの最大需要電力実績と向こう10日間の最高気温予報をグラフ表示しています。先の最高気温から電力ピーク値を予測することで、空調運転の工夫やピーク電力の分散に繋がっていきたくと思っています。暑さが峠を越す9月末まで毎週（木）に最新版に更新します。

